



Title	山形市方言の文末詞ヤ : ヨと対比して
Author(s)	渋谷, 勝己
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2012, 10, p. 78-88
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/23225
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

山形市方言の文末詞ヤ

一ヨと対比して一

渋谷 勝己

【キーワード】山形市方言, 疑問文, ヤ, 情報のズレ

【要旨】

本稿では, 疑問文に後接する山形市方言の文末詞ヤを取り上げて, ヨと比較しながら, その分布や意味・用法を記述する。記述の内容をまとめると, 次のようになる。

(a) 文末詞ヤは, Yes-No 疑問文, WH 疑問文, 確認要求文に後接する。他の文タイプでは用いられない(2節)。

(b) ヤは, Yes-No 疑問文には必ずガを介して後接するという制約があるほかは, さまざまなタイプの疑問文や疑問句に後接する。一方, ヨについては, ノで終わる WH 疑問文には後接しないなどの制約がある(3節)。

(c) Yes-No 疑問文の場合, 文末詞ヤとヨは発話のなかでたがいに類似する機能を果たし, 入れ替えても意味はほとんど変わらないが, 文末詞ヤは「話し手は, 会話の相手に, 命題の内容を十分に確認することを促す」といったことを表し, 文末詞ヨは「話し手は相手に, 話し手の情報が正しいものとして, 相手の情報(命題内容)を差し戻し, その再確認/修正を促す」といった, 相手の情報を否定する度合いが高い形式であると考えられる(4節)。

1. はじめに

山形市方言では

- (1) そんなこと本当にあるかヤ?
- (2) なんでここに来たのヤ?
- (3) あのときは太郎も行った {ンネガ/ドレ/ベ} ヤー (行ったんじゃない/行ったじゃないか/行っただろう)

のように, 疑問文や確認要求文(渋谷 2001a)で使用される文末詞ヤがある。このヤは, カとは異なり, それ自身が疑問あるいは疑いを表すものではない。疑問文や確認要求文に後接して, 質問等を聞き手に差し出すその差し出し方を一定のものに設定する役割を担う形式である。

またこの文末詞ヤは, 次のように, 当該方言の文末詞ヨと置き換えられる場合がある。

- (4) そんなこと本当にあるか {ヤ/ヨ} ?

本稿ではこの文末詞ヤについて, 文末詞ヨと対比しつつ, その意味・機能を記述する。データは主に筆者(18歳まで山形市に在住, 以後24歳まで東京, その後現在まで大阪在住)の内省によって得たものを使用する。また, 内省を活性化するために, 国立国語研究所(1978)の談話データ(山形市の北方約20kmの河北町谷地で収録)および筆者が収録

した手元の談話データを参照した。

以下、2節では文末詞ヤとヨの文内分布を整理し、3節では、各タイプの疑問文における、文末詞ヤとヨの後接のありかたを整理する。また4節では、Yes-No 疑問文に限定して、文末詞ヤとヨの意味・用法を記述する。なお、以下においては、例文は、理解の便を考慮して文末詞および一部の述語部分のみ方言形をカタカナで示し、他の部分は標準語で記す。また「*」はその文が不適格であることを示す。

2. 文末詞ヤ・ヨの分布

最初に、山形市方言の文末詞ヤおよびヨの使用される環境（文内分布）を整理しておく。

2.1. 生起する文タイプ

ヤは、先にあげた例文(1)～(3)に見たように、Yes-No 疑問文、WH 疑問文、ンネ・ベ・ドレを用いた確認要求文の、3つのタイプの疑問文に後接して使用される。平叙文や、意志、勧誘を表す文、命令文などでは使用されない。以下、比較のために、文末詞ヨと併せて示す。

(5) (山の中腹を見上げて) あそこに大きな松がある {*ヤ/ヨ} (平叙文。「アルリャ」が「アルヤ」のように発音されることがあるが、別物である。リャについては渋谷 2002 参照)

(6) そんなら俺が行くべ {*ヤ/*ヨ} (行こう (意志))

(7) 早く行くべ {*ヤ/*ヨ} (行こう (勧誘))。「行グベハ」が「行グビャー」のように発音されることがあるが、別物である。ハについては渋谷 1999 参照)

(8) 早く行け {*ヤ/ヨ} (命令。これも、「行ゲハ」が「行ギャー」のように発音されることがあるが、別物である)

以上のように、ヨは疑問文のほか、平叙文や命令文でも使用できるのに対して、ヤの使用は疑問文に限られている。

2.2. 他の文末詞との共起関係

また、他の文末詞との共起関係ということでは、文末詞ヤは、上の例で見たように、ガヤンネ、ドレ、ベなどの疑問文、確認要求文で使用される文末詞に後接するが(詳細は3節)、疑問文に後接することのあるズなどの文末詞は、文末詞ヤと共起することはない。

(9) きのうち学校になんか行ったガズ

(10) *きのうち学校になんか行ったガヤズ

(11) *きのうち学校になんか行ったガズヤ

文タイプを選ばずに汎用されるネ、ハなども、ヤと共起することはない。

(12) *きのうち学校になんか行ったガヤ {ネ/ハ}

(13) *きのうち学校になんか行ったガ {ネ/ハ} ヤ

ヨは先に述べたようにヤと同じ位置で用いられ、対立する形式であると思われる。共起す

ることはない。

(14) *きのう学校になんか行ったガ {ヤヨ/ヨヤ}

(15) *いつ学校になんか行った {ヤヨ/ヨヤ}

3. 疑問文におけるヤ・ヨの後接のありかた

次に、文末詞ヤの疑問文への後接のありかたを、もう少し詳しく見てみよう。以下、Yes-No 疑問文の場合 (3.1)、WH 疑問文の場合 (3.2)、確認要求文の場合 (3.3) に分けて示す。

3.1. Yes-No 疑問文の場合

Yes-No 疑問文は、山形市方言の場合、基本的に次の (a) もしくは (b) のいずれかの形をとる。

(a) 文末詞を使用せず (以下、「 \emptyset 」と表記)、平叙文と同じかたちで上昇調のイントネーションがかぶさる場合 (以下、上昇調のイントネーションは「↑」で示す)。

(b) 文の末尾に「カ」もしくはその有声化した「ガ」(詳細は省略するが、両者は音声的な環境によって相補分布をなす。以下すべて「ガ」と表記) を付加する場合。

以下はその具体例である。なお、文末のイントネーションにはいくつかの種類があり、また「 \emptyset 」が用いられた文とガが用いられた文でもその意味・用法に違いがあるように思われるが、ここではその分析は行わない。

(16) おまえ、きのう学校に行った { \emptyset /ガ} ↑ (動詞述語文)

(17) 今日は外は寒い { \emptyset /ガ} ↑ (形容詞述語文)

(18) (遊びに来た子供の友達に父親が) お父さん元気 { \emptyset /ダ/??ガ/ダガ} ↑ (形容動詞述語文¹⁾)

(19) あの人、学生 { \emptyset /*ダ/??ガ/ダガ} ↑ (名詞述語文)

文末詞ヤは、上の例のうち、ガが使用された場合にのみ、ガに後接して使用される。イントネーションは上昇調をとる場合を示したが、下降調をとることも可能である。

(20) おまえ、きのう学校に行った {* \emptyset /ガ} ヤ↑ (動詞述語文)

(21) 今日は外は寒い {* \emptyset /ガ} ヤ↑ (形容詞述語文)

(22) (遊びに来た子供の友達に父親が) お父さん元気 {* \emptyset /*ダ/*ガ/ダガ} ヤ↑ (形

1) 形容動詞述語文と名詞述語文の場合には、「 \emptyset 」をとる点、ガが不自然になる点(「おまえが言ったのは「元気」ということばか」のようにメタ的な引用を行う場合に「「元気」ガ」ということは可能)、およびダガが使用される点は同じであるが、「ダ」の形が形容動詞述語文の場合には適格であるのに対して名詞述語文では不適格になる点が異なっている。したがって、形容動詞述語文については、動詞述語文や形容詞述語文にあわせて、

○ (遊びに来た子供の友達に父親が) お父さん元気だ { \emptyset /ガ} ? (形容動詞述語文) のように分析することが可能であるが、名詞述語文は変則的なものとして記述することになる。なお、ガは下降調をともなって納得を表すこともあるが、その場合には形容動詞述語文はガ、ダガ両者が使用されるが、名詞述語文はガ単独の形が使用され、ダガは用いられない。

○ あー、みんな元気 {ガー/ダガー}。それはよかった (形容動詞述語文)

○ あー、あの山が蔵王 {ガー/*ダガー} (名詞述語文)

容動詞述語文)

(23) あの人, 学生 { \emptyset / \ast ダ/ \ast ガ/ダガ} ヤ↑ (名詞述語文)

上のヤは, いずれもヨに置き換えることができる。

(24) おまえ, きノウ学校に行った { \emptyset /ガ} ヨ↑ (動詞述語文)

(25) 今日は外は寒い { \emptyset /ガ} ヨ↑ (形容詞述語文)

など。

なお, ヤとヨはいずれも, 納得を表すガには後接しない。

(26) あれが蔵王ガ { \emptyset / \ast ヤー/ \ast ヨー} (あれが蔵王か)

3.2. WH 疑問文の場合

次に, WH 疑問文におけるヤおよびヨの後接のありかたを整理する。

山形市方言においては, WH 疑問文にガが使用されることはない。文末詞ヤは, WH 疑問文に, 以下のように後接する。頻用されるノダ文の形もあわせて示す。下降調のイントネーションを伴うことが多いが, 徐々に上昇するイントネーションを伴うこともある。

(27) おまえ, きノウはいつ学校に行った { \emptyset /ノ/ンダ²⁾} ヤ (動詞述語文)

(28) 大根はいつ買うと安い { \emptyset /ノ/ンダ} ヤ (形容詞述語文)

(29) どの問題が一番簡単 { \emptyset /ダ/ナノ/ナンダ} ヤ (形容動詞述語文)

(30) いま何時 { \emptyset /ダ/ナノ/ナンダ} ヤ (名詞述語文)

その他, ヤは,

(31) 太郎が来るのいつ { \emptyset /ダ/ナノ/ナンダ} ヤ

(32) 太郎が卒業した学校ってどこ { \emptyset /ダ/ナノ/ナンダ} ヤ

のように疑問詞を述部にもつ文や,

(33) A: おれの結婚式に出してくれない?

B: {いつ/どこで/ナシテ (なんで)} ヤ

(34) A: あした, 例の作業をやりたいと思うんだけど

B: {どの部屋で/誰と} ヤ

のように, 文ではなく, WH 句に後接して使用されることもある。

一方, 文末詞ヨは, 多くの場合ヤの代わりに使用することができるが, ノダ文がノの形をとる場合や疑問詞に直接後接する場合には使えない³⁾。

(35) a そんなにたくさん, 誰が食べるノ {ヤ/ \ast ヨ}

b そんなにたくさん, 誰が食べるンダ {ヤ/ヨ}

(36) a いつ帰るの {ヤ/ \ast ヨ}

b いつ帰るンダ {ヤ/ヨ}

(37) a こんな時間に, どこに行くノ {ヤ/ \ast ヨ}

2) ノを使用した場合とノダを使用した場合とで意味が異なるが, ここでは立ち入らない。

3) Yes-No 疑問文の場合も, ノダ文でヨが使用できる。

○ おまえ, 本当に学校に行ったンダガ {ヤ/ヨ}

また, WH 疑問文でも, 疑問語が述語になった場合にはヨが使用できる。

○ もう出かけるっていうけど, いま何時だ {ヤ/ヨ}

- b こんな時間に、どこに行くンダ {ヤ/ヨ}
- (38) A : 私, 山形に帰ろうと思うんだけど。
B : いつ {ヤ/*ヨ}
- (39) A : 私, 性格が悪いんだって
B : 誰 {ヤ/*ヨ}, そんなこと言ったの。

3.3. 確認要求文の場合

最後に、確認要求文にヤやヨが後接した場合を整理する。

山形市方言には、標準語の「ではないか」に相当する確認要求形式としてンネ (ガ) (田野村 1988 の「ではないかⅡ類」) とドレ (同じく「ではないかⅠ類」), また「だろう」に相当する確認要求形式として「べ」がある (用法の詳細は渋谷 2001a など)。

- (40) あのいたずら, 本当はおまえがやったのンネ↑ (やったんじゃない?, Ⅱ類)
- (41) おまえがやったんだドレ (やったんじゃないか。Ⅰ類)
- (42) あのとときは雨が降っていたケベ↑ (降っていただけろう?, 「べ」は下降調をとることもある)

文末詞ヤは、これらの形式のいずれにも後接する (ンネの場合にはガを必ず介する。またヤはこの場合、長音化して発音される)。

まず、推量確認を表すンネの場合には、以下のように、ヤ、ヨのいずれも用いられる。イントネーションは、上昇調をとることもあれば、下降調をとることもある。

- (43) あのいたずら, 本当はおまえがやったのンネガ {ヤ/ヨ} (やったんじゃない?)
- (44) いまはやるって言っても, あしたになったらすぐに忘れるのンネガ {ヤ/ヨ}
- (45) A : この子, 泣き止まないね。
B : うんちしたのンネガ {ヤ/ヨ}。見てみる

一方、ドレに後接する場合には、ヤは下降調をともなって使用されるが、ヨが使用されることはない。

- (46) おまえがやったんだドレ {ヤー/*ヨ} (やったんじゃないか)
- (47) みんなで見ダケドレ {ヤー/*ヨ}
- (48) ここにちゃんとあるドレ {ヤー/*ヨ}

次は、「べ」に後接した場合である。ヤ、ヨともに下降調を伴って使用される・

- (49) あのとときは雨が降っていたケベ {ヤ/ヨ} (降っていただけろう?)
- (50) あのととき, したべ {ヤ/ヨ}
- (51) あの人, こんなもの飲まないべ {ヤ/ヨ}

3.4. まとめ

以上、文末詞ヤおよびヨの、疑問文の各タイプへの後接のありかたを整理すると、次の表ようになる。確認要求を表すドレが後接した文は、文全体としては平叙文に属するものと思われるが、ヤが後接するという点では疑問文と同じ振る舞いをしていることになる。

表 文末詞ヤ・ヨの各疑問文への後接のありかた

疑問文のタイプ	先行形式	ヤ	ヨ
Yes-No 疑問文	∅	×	×
	ガ (質問)	○	○
	ガ (納得)	×	×
WH 疑問文	∅	○	○
	ノ	○	×
	ンダ	○	○
	WH 句/疑問詞	○	×
確認要求文	ンネガ	○	○
	ドレ	○	×
	ベ	○	○

4. 文末詞ヤとヨの意味と用法

次に、本節では、文末詞ヤの意味と用法を、Yes-No 疑問文に後接した場合に限定して分析する。WH 疑問文と確認要求文については、3.4 節のヨが使えない部分のその理由をはじめとしてまだ明らかでない部分が多いため、ここでは分析は行わない。

以下、文末詞ヤの基本的な意味 (4.1)、文末詞ヤが使用できない場合 (4.2)、文末詞ヤとヨの違い (4.3) の3点について整理する。

4.1. 文末詞ヤの基本的な意味

結論を先に述べれば、文末詞ヤの用法は次のようにまとめることができる。

(52) 話し手 (ヤを使用する会話参加者) は、会話の相手⁴⁾ に、命題の内容を十分に確認することを促す。

すなわち、たとえば、

(53) あした日曜日だガヤ↑

といった文は、

(54) [[[あした日曜日だ (命題)] ガ] ヤ]

といった構造をもち、ガによってまず命題部分の真偽を問う疑問文であることを明示したあと、ヤを付加することによって、さらに命題内容 (や命題内容から推論されることがら) の妥当性を十分に確認することを相手に促す有標の質問のあり方を創出するものである。

以下、具体的な用例で確認する。

文末詞ヤが使用される状況の典型的なケースは、上記命題部分について、先行する会話などから話し手と相手が異なった情報や予測 (以下、適切なことばではないが「情報」とする) を持っていることが判明し、しかも話し手は自分の情報のほうが正しいという根拠

4) 以下、本稿では、質問を受ける会話参加者を「相手」として言及する。疑問文について分析する際には、「聞き手」ということばは質問を発する者 (=話し手) という意味にも解釈できるので紛らわしいからである。

を持っている、そのような状況で、相手に、相手の持つ情報を再考／再確認することを促すような場合である。以下、例では、相手の発話を引用のかたちで示し、話し手が持っている根拠を「じゃないか」の発話で示した。

(55) おまえ、きのう学校に行ったって言うけど、きのう学校になんか行ったガヤ。一日中テレビを見ていたじゃないか。

(56) この本くれって言うけど、おまえ、本当に読むガヤ。このまえあげた本も、そこに放り出したままじゃないか。

(55) では、相手がきのう学校に行ったと述べたことに対して、話し手は、相手がきのう一日中テレビを見ていたという確かな情報(目撃情報)をもっており、相手の発話内容(きのう学校に行ったこと)の妥当性に強い疑いを投げかけた発話となっている。また、(56)は、相手の依頼から推測される、「本を譲り受けてその本を読む」という相手の将来の行動について、相手のこれまでの行動を根拠に、その推測した内容(相手がその本を読むこと)の実現に疑いを持っている発話である。以下の例も同様に解釈できる。

(57) おまえはあいつも来るって言ったけど、本当に来るガヤ。いつもドタキャンじゃないか。

(58) (子供に) プラモデル買ってくれって言うけど、一人で作れるガヤ。この前も結局お父さんが作ることになったじゃないか。

(59) (落とし物をさがして) おまえ、さっきからそこばかり探してるけど、そんなところにあるガヤ。だいたいそこには誰も行かなかったじゃないか。

(60) おまえ、あの人に頼むって言うけど、あの人なんか来てくれるガヤ。いつも忙しいじゃないか。

(61) おまえ、おれが全然親身になって考えてくれないって言うけど、おれがこれまでおまえを見捨てたことなんてあるガヤ。いつも助けてやってるじゃないか。

その他、文末詞ヤが使用される典型的な会話例をあげておく。

(62) 太郎：みそラーメンには、やっぱりラー油だね。

次郎：え〜、みそラーメンにラー油なんて入れるガヤ。ラー油は餃子じゃないの？

(63) 太郎：おまえ、料理大会に出てくれないか

次郎：おれよりも花子のほうがいいんじゃないか。

太郎：えー？ あの勉強してばかりいる花子が料理なんて作れるガヤ

以上の例はいずれも、相手の情報を強く疑う例であるが、文末詞ヤは、必ずしもそれほど強く異を唱えるものではない場合もある。たとえば、

(64) (ジャガイモの皮をむきたいと言う子供にしばらくやらせたあと) どうだ、むけるガヤ

(65) (うわさで富士山が見えると聞いたデパートの屋上に子供とやってきて) どうだ、見えるガヤ

(64) の文は、上で見た典型例のように、話し手の情報と子供の情報が異なっていることを「じゃないか」等を含む発話によって明示できるようなものではないが、話し手は子

供がじゃがいもの皮をむくという行為を実現できることに疑問を抱いており、その実現が本当に可能かどうかを十分に確認するよう、相手に促すものになっている。(65)についても同様に、富士山が見えることに若干の疑いをもっており、相手に見えるかどうかの確認を行うよう求めている。

なお、ヤを使用した文は、話し手が、話し手の情報と相手の情報にズレがあることを認識し、相手にその修正（話し手の情報と一致させること）を求めるものであるので、基本的に相手の positive face をつぶす働きをもっている。したがって、目上の相手には、丁寧の文末詞ス（渋谷 2001b）などを用いてもやは（ヨも）使いにくい。

(66) (先輩に) ??あしたは日曜日ダガ {ヤ/ヨ} ッス

4.2. 文末詞ヤが使用できない場合

次に、文末詞ヤの用法をさらに明確にするために、ヤが使用されない場合をまとめておこう。網羅的なものではないが、次のような場合がある（例の「#」はその発話はその状況では不自然であることを表す）。

(a) 話し手に情報がなく、相手から情報を引き出すための質問を行う場合。とくに、質問によって話題が導入されたり、話題が切り替わるところなどでは、ヤは使用しにくい。

(67) 夫：(ふと約束を思い出して) #あした日曜日だガヤ

妻：あしたは土曜日よ

夫：あーよかった。約束忘れてたかと思ったよ

(68) A：#おまえ、流れ星って見たことあるガヤ

B：みんな見たことがあるって言ってるけど、私はまだないのよ

(69) 父親：#ところで、おまえ、あしたどこかに行くガヤ

子供：なんで？

父親：いや、どこにも行かないんだったら遊園地にでも連れてってやろうかと思って

(b) 疑問文を（間接的な）依頼表現として使用する場合。

(70) #わるいけど、教えてケネガヤ（くれないか）

(71) #おまえの部屋に電卓ないガヤ（「電卓を貸してほしい」の意で）

このような疑問文の場合も、相手の情報に異議を述べるものではないため、ヤは使用できない。ちなみに(71)でヤを用いた場合には、相手がたとえば面倒な計算に苦戦しているときに、相手の行動の改善（この場合には電卓を使用すること）をアドバイスする文になる。

4.3. 文末詞ヤとヨの違い

最後に、文末詞ヤと文末詞ヨの違いについて考える。

すでに3節で整理したように、文末詞ヤと文末詞ヨは、Yes-No 疑問文では統語的に同じ振る舞いをし、たがいに置き換えてもほぼ同じ意味を表す。しかし、必ずしも同義ではなく、次のような違いがあるように思われる。すなわち、文末詞ヤの場合には、

(72) 文末詞ヤ：相手に、命題の内容を十分に確認することを促すのが基本義であるが、ヨは、たとえば、

(73) [[[あした日曜日だ (命題)] ガ] ヨ]

などの場合、

(74) 文末詞ヨ：話し手は相手に、話し手の情報が正しいものとして、相手の情報(命題内容)を(ガによって疑うべきものと明記して)差し戻し、その再確認/修正を促す。

のように、「却下」の意味が強いように思われる。

このことは、次のような例の自然さの違いから理解することができるかと思われる。

① ヤが自然な場合

(75) (星を見に行くと言って外を出た子供についてきて父親が) どれ、見えるガ {ヤ / ?ヨ}

(76) 子供：ちょっとジャガイモの皮むかせて。

親：もう中学生なんだからやってみな。どれ、むけるガ {ヤ / ??ヨ}

これらの例はいずれも、「星が見えること」「子供がジャガイモの皮がむけること」に疑いを覚えているものの、その実現が困難だと述べているものではない。このような場合にはヤのほうが自然になる(4.1 参照)

② ヨが自然な場合

(77) A：おまえになんか絶対にできないよ。でもそこまで言うんだったらやってみな。(相手がやるのを見て) どれ、できるガ {??ヤ / ヨ}

B：ん～～

A：やっぱりできないじゃないか。

この例では逆に、当初から相手の情報を疑ってかかっており、すでに否定することを用意した発話である。このような場合には、ヨが自然になる。

なお、「よ」は共通語でも疑問文に後接して、

(78) あいつ、本当に東京に行ってしまうのかよ

(79) 本当にこんなところに洞穴があるのかよ

(80) あいつがわざわざ来てくれるかよ

のように用いられることがあり、その意味も、山形市方言でヨを用いた場合と類似する。

(81) あいつ、本当に東京に行ってしまうンダガヨ

(82) 本当にこんなところに洞穴があるンダガヨ

(83) あいつがわざわざ来てくれるガヨ

しかし、次のような対話の例では両コードに違いが現れる。

(84) A：あしたの遠足に参加してもいい？

B：えっ、事前の申込みが必要だったけど、申込みした {#かよ / ガヨ}

(85) (兄が弟に) 花子ちゃん、本当に東京に行ってしまう {#のかよ / ンダガヨ}。花子ちゃんのお父さんは来年も PTA の会長をやるって言ってたよ。おまえの聞き間違えじゃないのか

共通語の「よ」を用いた文は、「あいつが東京に行くこと」などの事態を疑って相手に差し戻してはいるものの、必ずしもその疑いの根拠があるわけではない。一方、山形市方言のヨを用いた(84)や(85)は、「相手の事前申込みを受けた記憶はない」「花子ちゃんのお父さんは来年もPTAの会長をやると言っていた」という根拠をもとに、「申込みした」「花子ちゃんが東京に行く」ことを疑い、相手に再確認を要請している文である。

5. まとめ

以上、本稿では、疑問文に後接する山形市方言の文末詞ヤを取り上げて、ヨと比較しながら、その分布や意味・用法を記述した。まとめると次のようになる。

(a) ヤは、Yes-No 疑問文、WH 疑問文、確認要求文に後接する。他の文タイプでは用いられない(2節)。

(b) ヤは、Yes-No 疑問文には必ずガを介して後接するという制約があるほかは、さまざまなタイプの疑問文や疑問句に後接するが、ヨには、ノで終わるWH 疑問文には後接しないなどの制約がある(3節)。

(c) Yes-No 疑問文の場合、文末詞ヤとヨは発話のなかでたがいに類似する機能を果たし、入れ替えても意味はほとんど変わらないが、文末詞ヤは「話し手は、会話の相手に、命題の内容を十分に確認することを促す」といったことを表し、文末詞ヨは「話し手は相手に、話し手の情報が正しいものとして、相手の情報(命題内容)を差し戻し、その再確認/修正を促す」といった、相手の情報を否定する度合いが高い形式であると考えることができる(4節)。

なお、WH 疑問文と確認要求文で使用されるヤの意味・用法については不明な点が多く、本稿では分析を行わなかった。今後の課題とする。

* 本研究は、平成23年度文部科学省科学研究費基盤研究(C)「日本語方言の終助詞の意味の類型に関する研究」(代表者：井上優、課題番号21520423)によるものである。

【参考文献】

- 国立国語研究所(1978)『方言談話資料(1) 一山形・群馬・長野一』秀英出版。
- 渋谷勝己(1999b)「山形市方言の文末詞ハ」『阪大社会言語学研究ノート』1, pp.6-15, 大阪大学文学部社会言語学研究室。
- (2001a)「山形市方言における確認要求表現とその周辺」『阪大社会言語学研究ノート』3, pp.20-32, 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室。
- (2001b)「山形市方言の丁寧語ス」『阪大社会言語学研究ノート』3, pp.49-60, 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室。
- (2002)「山形市方言における談話マーカ『ホレ・ホリヤ;アレ・アリヤ』」『阪大社会言語学研究ノート』4, pp.131-42, 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室。
- 田野村忠温(1988)「否定疑問文小考」『国語学』152, pp.左16-30, 国語学会。

しぶや かつみ (大阪大学大学院)

sbj@let.osaka-u.ac.jp